

チャンス・チャレンジ・チェンジ

秋田県立養護学校天王みどり学園 加賀谷 勝



これらのセンター的機能の役割

1 特別支援学校のセンター的機能の具体的な内容

- (1) 幼児児童生徒の実態把握（授業参観、検査の実施・報告）
- (2) 具体的な支援内容・方法の提案（「個別の指導計画」作成の助言）
- (3) 担任や本人、保護者の教育相談（子育てに悩む保護者の増加）
- (4) 特別支援教育の動向や子どもとのとらえ方等の研修会の講師
- (5) 校内委員会やケース会議への参加
- (6) 地域の関係機関との連携・調整（特別支援に係る連携協議会の運営・協力）
- (7) 教材・教具や書籍の紹介
- (8) 特別支援教育等に関する情報提供（地域支援通信の発行 HPによる情報発信）



2 センター的機能の課題と改善策

- (1) 各市町村、学校（園）が自己解決力を高める支援
 - ・各学校（園）が「うまくいった、自分たちでできた」を実感できるように、個別の指導計画や年間計画の作成等、具体的に使えるツールを紹介して支援をフェイドアウトする。
 - ・一人の子どもの困り感は、その子どもとうまく関われない周囲の子どもの困り感でもあるので、個への支援を全体への支援に発展させる。子ども同士が育ち合い、学び合う環境を設定する。（みんなが参加できる授業づくりを提案する）
 - ・担当が変わっても機能する校内体制を構築するために、次世代のコーディネーターを育成する。（うまく機能している学校の成功例を紹介する）
 - ・名称は異なるが各地域に「特別支援に係る連携協議会」が設置されてきた。センター的機能で知り得た子どもの情報を提供できる市町村単位の連携協議会設立のために、関係機関をつなぐ役割を果たす。地域の子どもは地域で育てる！
 - ・高等学校のニーズに 대응するため、今年度から秋田県では「高校学校特別支援隊」を設置した。専門性の高いスタッフを派遣するために、福祉・労働等の関係機関との連携に加えて、特別支援学校間の連携が不可欠となる。オール秋田による支援！
- (2) 地域支援の成果を自校の教育力アップにつなげる方策
 - ・センター的機能は、すべての特別支援学校で担うことが明確に位置付けられている。その活動は多岐にわたっているため、一部の教職員が行うのではなく、全職員が担当できる校内体制を整備する。
 - ・特別支援学校においても、次世代の特別支援教育コーディネーターを育てるために、可能な限り他校への支援（検査・巡回相談・授業参観等）に教職員を同行して、現場の空気を肌で感じる経験を増やす。
 - ・センター的機能の内容を職員会議等で報告したり、地域支援通信で紹介したりする。他校の取組の状況やアドバイスした内容は、自校の子どもたちへの指導に役立つ。
 - ・地域支援に必要な専門性とは発達障害の知識ではなく、授業改善の力である。校内において小さな研修会を計画して、教職員の専門性の向上を図る。

センター的機能は、「何でもする支援」から各市町村や学校が「自立するための支援」へ、「個への支援」から「みんなに有効な支援」に変わってきた。